

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	国語	現代の国語	必修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教材	「新編 現代の国語（大修館）」				
	「セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版（桐原書店）」				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、グループ活動、発表
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察、提出物

3 履修上および学習上の注意

- ・読書をこころがけ、積極的に論理的文章・実用的文章に触れるようにしてください。
- ・積極的に各単元の言語活動に取り組むようにしてください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	「変わる」ことを楽しもう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 発表、意見交流を行う (主) 主体的に課題に取り組む	5
5	コミュニケーションは技術だ	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) コミュニケーションの適切なあり方を考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
6	ことばの使い分け	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 敬語などの言葉の使い方を適切に使い分ける力を養う (主) 主体的に課題に取り組む	5
7	正しく書こう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 文章の正しい表記の仕方を考え表現する (主) 主体的に課題に取り組む	12
8	伝わるように話そう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 他者にわかりやすく伝える方法を考え、表現する (主) 主体的に課題に取り組む	10
9			
10	説明のしかたをとらえよう	【前期期末考査】 (知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 他者にわかりやすく伝える方法を考え、表現する (主) 主体的に課題に取り組む	5
11	ナンバーワンか、オンリーワンか	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 二つの異なる意見を比較し、それぞれの良しあしを考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
12	生きることと食べることの意味	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 文章全体の構成や接続表現の役割を考える (主) 主体的に課題に取り組む	5
1			
2	ショートスピーチをしよう	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 話の構成や展開を工夫して話す (主) 主体的に課題に取り組む	10
3	水の東西	【後期期末考査】 (知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 対比の関係に注目し、その意図を考えながら読む (主) 主体的に課題に取り組む	8
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	地歴公民	公共	必履修	3
科目の目標	<p>①知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める</p>				
教材	高等学校 公共 これからの社会について考える (数研出版)				
	高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート (数研出版)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	現代の諸課題を捉え概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を他季節かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を元に多面的・多角的に考察・判断・議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・「公共」は倫理、政治、経済、国際社会に分けられており、2～3年次の選択科目である「倫理」「政治・経済」の基礎となる科目です。・「18歳で成人」となる皆さんは、高校生になったのをきっかけに、世の中の動きをニュースなどで把握したり、各国の文化や考え方の違いを理解し、社会の一員となる準備をしましょう。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	【知】 青年期の意義、思想や三大宗教の内容が理解できている。 【思】 自己形成の課題について考察できている。思想や宗教、文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 【主】 社会の一員としての自覚を深め、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方、日本の伝統思想や文化、外来思想から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。	12
5 6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	【知】 近世・近現代の思想内容、地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思】 先人の生き方を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 【主】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。	14
7 8	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	【知】 法などの社会規範の役割、民主政治のあり方、日本国憲法の三大原理の内容、日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 【思】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法における権利の保障と、他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。日本の平和主義のあり方の変化について考察できている。 【主】 民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	12
9 10	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 民主参加と民主政治の課題	【知】 三権相互の関係と役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】 行政機能拡大の是非、日本政治の課題と今後の見通し、地方自治の現状と身近な地域で行われている事例について考察できている。 【主】 裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。	14
11 12	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	【知】 企業や政府の役割、市場メカニズム、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあり方が理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状、契約の原則、労働問題や社会保障について理解できている。 【思】 現代の資本主義経済と市場メカニズム、GDPと豊かさとのつながり、景気の先行きと経済の動向について考察・判断できている。労働問題や社会保障について課題を発見し、解決の方法を考察できている。 【主】 経済社会に主体的に生きる一員として、新聞などで情報を集め、現状と今後の日本経済について見通しがたてられている。労働問題や社会保障の課題について主体的に追究できている。	23
1 2	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	【知】 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割、戦後の国際政治の流れ、国際社会における日本の役割、核軍縮への流れ、世界の紛争や人権問題について理解できている。貿易や外国為替相場のしくみ、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進む世界の現状が理解できている。 【思】 国連など国際機関の現状と課題、国際社会の諸問題について考察・判断できている。貿易や為替相場の変動、地域経済統合が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。 【主】 国際政治や国際経済の課題、平和と安全を維持するため何が有効なのか、グローバル化した国際経済について主体的に追究できている。持続可能な社会のあり方について主体的に追究できている。	19
3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	【知】 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 【思】 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 【主】 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。	11
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	数学	数学Ⅰ	必履修	3
科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教材	「最新 数学Ⅰ（数研出版）」				
	「書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅰ（数研出版）」				
留意点				開講予定人数	必履修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

副教材を、授業や家庭学習で活用する。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 数と式	【知】数の体系を実数まで拡張する意味を理解したり、数の概念に対する理解を深めることができる。 【思】式を、目的に応じて一つの文字に着目して整理したり、一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	18
5	第2章 集合と命題	【知】集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に使うことができる。	1
6		【思】事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付けた上で、色々な事象や数学の概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	
7	【前期中間考査】		24
8	第3章 2次関数	【知】関数の概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現する事の有用性を認識することができる。	1
9		【思】2次関数の値の変化を考察することを通じて、関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	
10	【前期期末考査】		12
11	第3章 2次関数		20
12	第4章 図形と計量	【知】鋭角での三角比の意味と相互関係について理解したり、鈍角まで拡張する意味と鋭角との関係を理解することができる。	1
1		【思】三角比や正弦定理、余弦定理を用いて、平面図形や簡単な空間図形の計量に活用することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	
2	【後期中間考査】		13
3	第4章 図形と計量		8
4	第5章 データの分析	【知】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し分析を行い、データの傾向や特徴を理解することができる。 【思】主張の妥当性について、実験などを通して得たデータを整理して判断したり、批判的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
5			6
6	【後期期末考査】		
7	第5章 データの分析		
			合計
			105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
電気・建築科	1	年	理科	科学と人間生活	必履修	2
科目の目標	<p>知識及び技能 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>思考、判断、表現 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>					
教材	科学と人間生活（実教出版）					
	アクセスノート 科学と人間生活（実教出版）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。
思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養えたか。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めたか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	学習観察

3 履修上および学習上の注意

理科4分野（物理・化学・生物・地学）すべてを学習します。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1章 科学と技術の発展	【知】科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 【思】科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現している。 【主】科学技術の発展に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	4
	2章 物質の科学 1節 材料とその再利用	【知】物質の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】物質の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	5
5	2節 食品と衣料		13
	【前期中間考査】		
6			1
	3章 生命の科学 1節 生物と光	【知】生命の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】生命の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	6
7			6
8	2節 微生物とその利用		6
9			6
	【前期期末考査】		
10			1
	4章 光の性質とその利用 1節 光の性質とその利用	【知】光や熱の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】光や熱の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	6
11			6
	2節 熱の性質とその利用		8
12			8
1	【後期中間考査】		
2	5章 宇宙や地球の科学 1節 身近な天体と太陽系における地球	【知】宇宙や地球の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】宇宙や地球の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1
3			7
	2節 身近な自然景観と自然災害		6
	【後期期末考査】		
	6章 これからの科学と人間生活	【知】これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。 【思】これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察している。 【主】これからの科学と人間生活に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1
			5
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	保体	体育	必履修	3
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教材	現代高等保健体育（大修館書店）				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技テスト・ゲーム、ワークシート
思考・判断・表現	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと。・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容 (単元名)	評価の観点 (観点別)	時数
4	オリエンテーション		1
	1 「体づくり運動」	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を目指し、取り組むことができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、話し合いに貢献しようとしている	8
5	2 「体育理論」		3
	3 「器械運動 (マット運動)」 「陸上競技 (走・投)」	「体育理論」 【知】スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】自主的に学習に取り組んでいる	14
6	4 「球技<ネット型> (バレーボール)」 「器械運動 (マット運動)」	「器械運動 (マット運動)」 【知】基本的な技や発展技を滑らかに安定して行うとともに、それらを構成し演技することができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を講えようとしている	14
7		「陸上競技 (走・投)」 【知】記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の行い方や体力の高め方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、ルール・マナーを大切にしている	
8	5 「陸上競技 (走・投)」 「球技<ネット型> (バレーボール)」	「球技<ゴール型>」 【知】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 (特に攻防について) 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	14
9		「球技<ネット型>」 【知】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 (特に攻防について) 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
10	6 「領域内選択 (球技)」 ・<ゴール型>サッカー ・<ネット型>ソフトテニス ・<バレーボール型>ソフトボール	「球技<バレーボール型>」 【知】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 (特に攻防について) 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	12
	7 「武道 (柔道)」 「球技<ゴール型> (バスケットボール)」	「武道 (柔道)」 【知】相手の動きの変化に応じた基本動作や基本技・連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 (特に攻防について) 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている	12
11			
12	8 「球技<ゴール型> (バスケットボール)」 「ダンス」	「ダンス」 【知】ダンスの楽しさや喜びを味わい、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現を通じた交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 (特に表現について) 【学】下記※2 参照、作品や発表などの話し合いに貢献している	12
1	9 「体育理論」		3
2	10 「スキー」	「スキー」 【知】技能の向上の楽しさ・喜びを味わうとともに、安定したスキー操作を実践することができる 【思】下記※1 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている	12
3		※1 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 自主的に取り組んでいる、互いに助け合い教え合おうとしている、一人一人の違いに応じた動きや課題、挑戦などを大切にしている、健康・安全を確保している	
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1	年	保体	保健	必履修	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・1単位科目のため欠課時数に留意すること。・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション	「健康の考え方」 【知】国民の健康課題や健康の考え方が変わってきていること、健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している	1
	【現代社会と健康】		
	01 「健康の考え方と成り立ち」	【思】現代社会と健康における情報や事象について、整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している	2
	02 「私たちの健康のすがた」	【学】※1参照	
5	03 「生活習慣病の予防と回復」	「生活習慣病などの予防と回復」	4
	04 「がんの原因と予防」	【知】健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
	05 「がんの治療と回復」	【思】自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスク軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している	
6	06 「運動と健康」	【学】※1参照	4
	07 「食事と健康」		
	08 「休養・睡眠と健康」		
7	09 「喫煙と健康」	「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」	4
	10 「飲酒と健康」	【知】喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えること、それらの対策には個人や社会環境への対策が必要であること、を理解している	
	11 「薬物乱用と健康」	【思】我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している 【学】※1参照	
8	【前期期末考査】		1
9	12 「精神疾患の特徴」	「精神疾患の予防と回復」	4
	13 「精神疾患の予防」	【知】精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること及び心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
	14 「精神疾患からの回復」	【思】習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している 【学】※1参照	
10	15 「現代の感染症」	「現代の感染症とその予防」	4
	16 「感染症の予防」	【知】感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること、その予防には個人の取組及び社会的な対策が必要であること、を理解している	
	17 「性感染症・エイズとその予防」	【思】感染症の発生や流行には違いがみられることについて整理し、感染のリスク軽減のための個人の取組及び社会的な対策に応用している 【学】※1参照	
11	18 「健康に関する意思決定・行動選択」		2
	19 「健康に関する環境づくり」		
12	【安全な社会生活】	「安全な社会づくり」	4
	01 「事故の現状と発生要因」	【知】環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故の防止には車両の特性の理解・適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が関わることを理解している	
1	02 「安全な社会の形成」	【思】様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している	
	03 「交通における安全」	【学】※1参照	
2	【後期期末考査】		1
	04 「応急手当の意義とその基本」	「応急手当」	4
3	05 「日常的な応急手当」	【知】適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい手順があること、応急手当は速やかに行う必要があること、を理解し、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる	
	06 「心肺蘇生法」	【思】習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾患に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している 【学】※1参照	
		※1 自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している	
			合計 35

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	英語	英語コミュニケーションⅠ	必履修	3
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア：日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア：日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援があれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝え合えるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に伝えられるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に文章を書けるようにする。</p>				
教材	<p>All Aboard ! English Communication Ⅰ (東京書籍)</p> <p>クラウン チャンクで英単語 Basic (三省堂)</p> <p>高校英語へのステップ (東京書籍)</p>				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト リスニングテスト 等
思考・判断・表現	定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・提出物 授業や課題への取り組み

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション	(使用教材や授業の進め方)	1
	Warm-up 1 アルファベット	(知) アルファベットについてその決まり事を理解している。また書くことができる技能を身につけている。	1
	Warm-up 2 教室で使う表現	(知) 教室で使う表現について理解している。 (思) 教室で使う表現について適切に使っている。 (主) 教室で使う表現について適切に使おうとしている。	2
	Warm-up 3 辞書の使い方	(知) 辞書の使い方を理解している。	3
	Communication 1	(知) 自己紹介を英語でできる。 (思) 自己紹介で表現力を見せる。 (主) 相手が理解しやすいように自己紹介ができる。	6
5	英文のしくみ 1・Pre-Lesson 1	(知) 自分のことをbe動詞を用いて表現できる。 (思) 自分のことを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分のことを相手に理解しやすく伝えようとしている。	3
	Pre-Lesson 2	(知) 一般動詞を用いた文を理解している。 (思) 一般動詞を用いた文で相手に情報を伝える。 (主) 一般動詞を用いた文を相手に理解させようとしている。	1
	Lesson 1	(知) 動詞の過去形の用法を理解している。 (思) 好きな食べ物について、相手の意見、自分の考えを伝える。 (主) 好きな食べ物について、自分の考えを伝えようとしている。	7
6	Lesson 1	(知) 動詞の過去形の用法を理解している。 (思) 好きな食べ物について、相手の意見、自分の考えを伝える。 (主) 好きな食べ物について、自分の考えを伝えようとしている。	1
7	【前期中間考査】		10
8			3
9			
10	Lesson 2 文法のまとめ 1 Let's Listen 1	(知) 進行形の文の用法を理解している。 (思) 好きな動物について、考えを表現できる。 (主) 好きな動物についての考えを表現しようとしている。	8
	Lesson 3 Communication 2	(知) 助動詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	3
11	【前期期末考査】		1
	Lesson 4 英文 Eメールの書き方 Extra Target 1	(知) to不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 行ってみたい所、行ってみたいことを表現できる。 (主) 行ってみたい所、行ってみたいことを表現しようとしている。	9
	Lesson 5 Let's Listen 2 英文のしくみ 2・文法のまとめ 2 Reading 1、Extra Target 2	(知) 動名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	1
12			9
1	【後期中間考査】		8
2			
3	Lesson 6	(知) 受け身を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	1
	Lesson 7	(知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。	8
	【後期期末考査】		
			合計
			105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	商業	ビジネス基礎	必修	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>① ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ② ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教材	ビジネス基礎 (実教出版)				
	全商ビジネス計算実務検定模擬試験問題集3級(実教出版)				
	全商商業経済検定模擬試験問題集3級ビジネス基礎 (実教出版)				
	ビジネス基礎 準拠問題集 (実教出版)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実際のビジネスに関する経済活動に基づき、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	現代社会におけるビジネスに関する課題を発見するとともに、様々な事例を工夫してよりよく解決する力を養っている。
主体的に学習に取り組む態度	現代社会におけるビジネスに関する課題について学ぶ態度及び主体的に取り組む態度を養っている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	ワークシート・定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	提出物・ワークシート

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	【知】 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解している。 【思】 商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。 【主】 ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	7
5			9
6	第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジスマナー 3. 情報の入手と活用 【前期中間考査】	【知】 ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】 ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 【主】 情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	1 12
7			9
8	第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	【知】 経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。 【思】 経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 【主】 経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる	6
9	第4章 さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業	【知】 ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 【思】 流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 【主】 流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。	1 11
10			12
11	【前期期末考査】		9
	5. 情報通信業		1
12			10
1	第5章 企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用	【知】 企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 【思】 企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 【主】 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	5
2			6
3	【後期中間考査】		1
	第6章 ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済	【知】 取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】 取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 【主】 取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	5
	第7章 ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 【後期期末考査】		
	第8章 身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	【知】 ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【主】 ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 【知】 さまざまな地域のビジネスについて理解している。 【思】 身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。 【主】 身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1 年	商業	情報処理	必履修	4
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教材	情報処理（実教出版）				
	令和7年度全商情報処理検定模擬試験問題集3級				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。
思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	・定期考査 ・ワークシート ・発表
主体的に学習に取り組む態度	・授業への取り組み姿勢（グループワーク、振り返り） ・ワークシート

3 履修上および学習上の注意

<p>・「情報処理」は、2年3年と様々な情報系選択科目を学ぶための基礎的な科目です。・企業における情報の管理と活用に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を通して、情報を扱う者としての役割と責任について理解を深めていきます。・情報技術の進歩、表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報を適切に扱うことができるようにしていきます。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規	【思】情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 【主】ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	10
5	3節 コミュニケーションと情報デザイン	【思】身近な事例で情報モラルにもつじた正しい行動のあり方を考え、説明することができたか。また、そのように行動しようとする態度を身につけたか。 【主】情報を取り扱う上で守るべき法律を理解し、その目的と概要を説明できたか。また、法令を遵守しようとする態度を身に付けたか。 【知】情報処理における情報デザインについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	12
6	【前期中間考査】 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	【思】情報処理における情報デザインの意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだせる。 【主】企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	1
7	3節 インターネットの活用	【知】【思】【主】コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアを適切に構成して、その機能を活用することができる。	16
8	4節 情報セキュリティの確保	【知】【思】【主】検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、効率的な検索ができるか。また、情報の価値や正確性について理解できたか。	12
9	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 【前期期末考査】	【知】【思】【主】電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用できるか。また、危険性などについて理解できたか。 【知】【思】【主】情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できるか。また、個人が身につけるべき方策や様々な問題点などについて理解できたか。	7
10	3節 グラフの作成	【知】【思】【主】情報の重要性について理解するとともに、情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	1
11	4節 情報の整理・検索・抽出	【知】【思】【主】基本的な操作や関数等について理解し、表を作成する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 【知】【思】【主】それぞれのグラフの特徴やグラフの構成要素を理解できたか。目的に応じた適切なグラフを作成できたか。	16
12	5節 問題の発見と解決の方法	【知】【思】【主】基準のキー項目でデータの整列ができるか。フィルタ機能などを利用して、データの分類や整列、必要なデータの検索、抽出ができるか。	13
1	【後期中間考査】 4章 ビジネス文書の作成	【知】【思】【主】ビジネスに関する問題の発見と解決について、関連する技術を身に付けている。情報の提供に対する要求を分析し、評価・改善できる。自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	7
2	1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	【思】【主】情報と文書の関係などについて興味を持ち、各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解できたか。	8
3	1. ワープロの操作と入力方法 2. ワープロを利用した文書の作成 3. 社外文書 4. 社内文書 3節 応用文書の作成	【知】【思】【主】ワープロを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できるか。ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを理解できたか。	1
	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 【後期期末考査】	【知】【思】【主】計算機能やグラフ、イラストなどを利用した表現力に富んだ文書の作成に積極的に取り組んだか。	8
	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	【知】【思】【主】プレゼンテーション活動の意義や役割を理解するとともに、情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付けているか。 【知】【思】【主】目的や形態に応じた適切な方法で、資料作成などの準備ができているか。また、聴衆が理解しやすい資料や構成になっているか。実習や探究問題に主体的に取り組んでいるか。	
			合計 140

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	1	年	商業	簿記	必履修	4
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
教材	高校簿記（実教出版）					
	反復式簿記題集全商3級（実教出版）					
留意点	電卓使用				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。
思考・判断・表現	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けることができる。
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	小テスト、定期考査、ワークシート、演習
思考・判断・表現	小テスト、定期考査、ワークシート、演習、提出物
主体的に学習に取り組む態度	小テスト、定期考査、ワークシート、演習、提出物

3 履修上および学習上の注意

- ・「簿記」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を学ぶための基礎的な内容を学びます。
- ・企業会計に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な取引の記録と財務諸表の作成ができるようにしていきます。
- ・全商 簿記実務検定3級（11月、1月）、全経 簿記能力検定3級（11月、2月）程度の内容を学習します。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1編 簿記の基礎 第1章 企業の簿記	【知】・簿記の基礎的な知識を身に付けたか。 【思】・簿記を学ぶことの意義と必要性を考えたか。	2 7
	第2章 簿記の要素	【知】・簿記の要素と貸借対照表・損益計算書の構造や役割、簿記一巡の手続きなど、簿記の仕組みを理解したか。	4
5	[前期中間考査]	【思】・簿記の基礎概念として資産・負債・純資産・収益・費用は何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、適切に表現できたか。	2
	第3章 取引と勘定	【主】・簿記の要素について関心を示し、把握しようとする態度が見られたか。	3
	第4章 仕訳と転記	【知】・簿記上の取引の意味を理解しているか。 【知】・勘定記入法を理解しているか。 【思】・勘定記入について適切に判断し、正確におこなえているか。	4 8
6	第5章 仕訳帳と総勘定元帳	【知】・仕訳の意味を理解しているか。 【知】・各勘定口座への転記のしかたを理解しているか。	7
	[前期期末考査]	【知】・仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解しているか。	
	第6章 試算表	【思】・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確におこなえているか。 【主】・企業の取引を帳簿に記入することに関心を示し、仕訳と転記にも自ら進んで取り組もうとしたか。	8
7	第7章 決算	【知】・試算表の意味や役割を理解できているか。 【思】・試算表の作成について考え、適切に作成できたか。 【主】・試算表の作成について関心を高め、作成法を習熟しようとしたか。	7 4
9	第2編 取引の記帳と決算Ⅰ 第8章 現金・預金の記帳	【知】・貸借対照表と損益計算書の作成法を理解しているか。 【思】・貸借対照表や損益計算書の作成を考え、適切に作成できたか。 【主】・精算表の作成について関心を高め、作成法を習熟しようとしたか。 【主】・帳簿を締め切る決算に関心をもち、その手続きや記帳を正確に行おうとしたか。	7 7 5
	第9章 商品売買の記帳	【知】・現金・預金の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。 【思】・現金・預金の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。	4
10	[後期中間考査]	【主】・現金・預金の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	4
	第10章 掛け取引の記帳	【知】・商品売買の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。	8
	第11章 固定資産の記帳	【知】・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解したか。 【思】・商品売買の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。	2 8
11	第12章 決算（その1）	【主】・商品売買の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	4
12	第3編 取引の記帳と決算Ⅱ 第13章 手形取引の記帳	【知】・掛け取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。 【思】・掛け取引の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 【主】・掛け取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	6 8
1	第14章 その他の債権・債務の記帳	【知】・固定資産の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。 【思】・固定資産の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。	3 8
2		【主】・固定資産の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	
3	第15章 販売費及び一般管理費の記帳	【知】・決算の記録・計算・整理に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。 【思】・決算整理を含んだ決算について、一定の方法に従って判断処理しているか。	4 3
	第16章 資本金の記帳	【主】・基本的な決算整理を加えた決算に関心を高め、その決算処理の学習を的確に主体的に行おうとしているか。	3
			合計 140